



未来を拓く、新時代の町づくり

羽幌町長 森

淳

新年明けましておめでとうございます。希望に満ちた令和7年の輝かしい新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げますとともに、日頃より町行政に対し、多大なるご理解ご協力をいただいておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

令和6年を振り返りますと、元日に石川県能登地方を震源とし、最大震度7を観測した地震が発生したほか、翌1月2日には羽田空港滑走路上で民間航空機と能登半島地震への支援に向かう海上保安庁の航空機が衝突する事故が発生。この事故により両機が炎上し、民間航空機の乗客・乗員は全員が脱出できたものの、海上保安庁の航空機に搭乗していた方の尊い命が失われ、年明け後2日連続の大惨事が起きたことは大きな衝撃を与えたものと思います。

能登半島地震につきましては、本町の姉妹都市である石川県内灘町におきましても震度5弱を観測し、町の北部地域を中心に液化化現象による家屋の損壊、道路の隆起や陥没など甚大な被害が発生したところであり、本町におきましては、内灘町へ義援金を贈ると

ともに、町内に募金箱を設置し、町民のみなさまへ募金を呼びかけたほか、内灘町の事務負担軽減を図るべくふるさと納税の代理寄付受付を行うなど、さまざまな方法で復旧、復興への支援を行ったところであり、個人をはじめ、団体等を含む多くのみなさまより支援に対するお気持ちを感じ、心から感謝し厚くお礼を申し上げます。また、被災されたみなさまに心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧、復興をお祈りいたします。

本町に目を向けますと、4月に天売島で長らく確認されていなかったニシンの群衆が確認され、昨年に引き続き本年も群衆が確認され、ともに豊漁につながることを期待したいところであります。

9月には羽幌高等学校ラグビー部が北海道高校ラグビー北選手権大会に羽幌・富良野・芦別合同チームにより出場し、花園出場をかけた決勝戦では一進一退の攻防で互いに譲らない試合を展開し、同点優勝という素晴らしい成績を残したものの、抽選の結果惜しくも花園出場はかないませんでした。町民のみなさまに多くの感動を与えたものと思っております。

町行政では、私が就任し初の予算編成を行い、令和6年度をスタートさせたところであり、リフォーム補助(住宅改修促進補助制度)の再開、高齢者福祉ハイヤー事業における交付枚数の拡充、町内循環バス「ほつと号」については役場を経由するとともに停留所を増設し、学校給食費については、第1子半額、第2子以降は無償とすることなどに

取り組んだほか、各分野におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)化に向け、新たにデジタル推進課を設置し、住民の利便性向上と業務の効率化を進めているところであります。また、本町出身の漫画家、椎名軽徳氏が描いた人気作品「君に届け」(全30巻)を地域の未来を担う子どもたちに届けるべく、寄附を呼び掛けたところ、受付開始から1ヶ月余りで目標金額を達成することができました。本作品には本町の風景も登場し、国内のみならず海外においても翻訳されているなど多くの方に愛されている作品であり、集まった寄附で各学校や町内公共施設等に単行本全30巻を設置し、子どもたちに本町出身の作家の活躍を知ってもらうことで、将来の夢や希望を持つきっかけになればと思っております。

本年も、物価高騰をはじめとする厳しい状況が続く中、天売複合施設建設、焼尻小中学校や羽幌町中央公民館旧館の改築といった重要な課題に直面することが予想されます。

この課題を乗り越えるため、私をはじめ職員と町民のみなさまが一丸となり、「未来を拓き、新時代の町づくり」に全力で取り組んでまいります。

引き続き、町民のみなさま、議会、そして町が密接に連携し、住みやすい町の実現に努めるとともに、地域産業の活性化を図り、「未来に希望を持てるまちづくり」を進めてまいります。

また、留萌管内の市町村とも手を携え、地域全体の発展にも尽力していく所存ですので、町民のみなさまには引き続き力強いご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年がみなさまにとつて明るい希望を抱きながら一歩ずつ前進できる年となりますことを心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。